

**2023年3月期**

**決算補足資料(連結IFRS)**

小野薬品工業株式会社

## 目次

### 【2022年度(2023年3月期)連結決算 (IFRS)】

P. 1	連結業績の状況、主な製品の売上収益 売上収益の内訳、地域別の売上収益に関する情報
P. 2	2022年度 (2023年3月期) 連結決算業績 (IFRS)
P. 3	連結業績の状況 (予想)、主な製品の売上収益 (予想) 売上収益の内訳 (予想)
P. 4	2023年度 (2024年3月期) 連結業績予想 (IFRS)
P. 5	減価償却費及び償却費・設備投資額及び無形資産投資額 期末従業員数
P. 6	株式の状況
P. 7-9	I. 開発品 (がん領域) の主な進捗状況
P. 10	II. 開発品 (がん領域以外) の主な進捗状況
P. 11-12	主な開発品のプロフィール

(注) (単位：億円) は、億円未満の数値を四捨五入しています。

## 2022年度（2023年3月期）連結決算（IFRS）

### 連結業績の状況

（単位：億円）

	2021年度 実績	2022年度 実績	前期比
売上収益	3,614	4,472	23.8%
営業利益	1,032	1,420	37.6%
税引前利益	1,050	1,435	36.7%
当期利益 （親会社の所有者帰属）	805	1,127	40.0%

（注）当社および関係会社の事業は「医薬品事業」の単一セグメントであります。

### 主な製品の売上収益

#### 2022年度実績

（単位：億円）

製品名	累 計 実 績					前期比		予想 金額
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		増減額	増減率	
オプジーボ点滴静注	341	358	393	332	1,423	299	26.6%	1,450
フォシーガ錠	131	133	155	147	565	199	54.3%	550
オレンシア皮下注	62	62	67	56	248	19	8.1%	245
グラクティブ錠	60	57	59	49	225	△20	△8.3%	230
カイプロリス点滴静注用	22	22	24	19	87	3	4.0%	90
パーサビブ静注透析用	21	21	23	19	84	△5	△5.3%	80
ベレキシブル錠	21	20	24	20	85	23	36.2%	85
オンジェンティス錠	12	12	14	12	50	21	72.9%	50
オノアクト点滴静注用	11	10	14	9	45	△4	△7.9%	45
オパールモン錠	11	11	12	9	44	△4	△7.6%	45
ビラフトビカプセル	9	8	9	7	32	5	18.2%	35
メクトビ錠	7	6	7	6	25	3	13.4%	25
オノンカプセル	7	5	6	7	25	△11	△30.7%	25

（注）仕切価格（出荷価格）ベースでの売上収益を開示しております。

### 売上収益の内訳

（単位：億円）

	2021年度	2022年度
製品商品	2,460	2,950
ロイヤルティ・その他	1,154	1,521
合計	3,614	4,472

（注）「ロイヤルティ・その他」の中には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」に係るロイヤルティ収入が、前期には699億円、当期には896億円、メルク社からの「Keytruda®」に係るロイヤルティ収入が、前期には308億円、当期には452億円、それぞれ含まれております。

### 地域別の売上収益に関する情報

（単位：億円）

	2021年度	2022年度
日本	2,420	2,882
米州	1,069	1,428
アジア	89	116
欧州	36	46
合計	3,614	4,472

（注）売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

## 2022年度（2023年3月期）連結決算業績（IFRS）

### ①売上収益 4,472億円 前期比23.8%増（前期3,614億円）

- ・抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、競合他社製品との競争が激化する一方、胃がん、食道がんなどでの使用が拡大したことにより、前期比299億円（26.6%）増加の1,423億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は565億円（前期比54.3%増）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は248億円（同8.1%増）、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は225億円（同8.3%減）、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は87億円（同4.0%増）、抗悪性腫瘍剤「ベレキシブル錠」は85億円（同36.2%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は84億円（同5.3%減）、パーキンソン病治療剤「オンジェンティス錠」は50億円（同72.9%増）となりました。
- ・長期収載品は、薬価改定の影響などにより、末梢循環障害改善剤「オパールモン錠」は44億円（前期比7.6%減）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は25億円（同30.7%減）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、前期比367億円（31.8%）増加の1,521億円となりました。

### ②営業利益 1,420億円 前期比37.6%増（前期1,032億円）

- ・売上原価は、製品商品の売上が増加したことなどにより、前期比166億円（17.7%）増加の1,101億円となりました。
- ・研究開発費は、研究に係る費用、創薬提携に係る費用、臨床試験に係る費用の増加などにより、前期比195億円（25.7%）増加の953億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前期比124億円（16.1%）増加の895億円となりました。
- ・その他の費用は、当期にダナファーマーがん研究所との特許関連訴訟の和解に伴う一時金や、2023年1月に設立された小野薬品がん・免疫・神経研究財団への拠出金の計上などにより111億円となりました。なお、前期にPD-1抗体関連特許に関する訴訟に係る費用などを計上しており、前期比16億円（12.9%）の減少となりました。

### ③税引前当期利益 1,435億円 前期比36.7%増（前期1,050億円）

- ・金融収支等は、前期比3億円（14.2%）減少の16億円となりました。

### ④当期利益 1,127億円 前期比40.0%増（前期805億円） （親会社の所有者帰属）

- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は、税引前当期利益の増加に伴い、前期比322億円（40.0%）増加の1,127億円となりました。

## 2023年度（2024年3月期）連結業績予想（IFRS）

### 連結業績の状況（予想）

（単位：億円）

	前期実績 (2021年度)	当期実績 (2022年度)	次期予想 (2023年度)	2022年度比
売上収益	3,614	4,472	<b>4,750</b>	6.2%
営業利益	1,032	1,420	<b>1,530</b>	7.8%
税引前利益	1,050	1,435	<b>1,540</b>	7.3%
当期利益 (親会社の所有者帰属)	805	1,127	<b>1,150</b>	2.0%

### 主な製品の売上収益（予想）

（単位：億円）

製品名	当期(2022年度)			次期(2023年度)		
	実績	前期比		予想	当期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
オブジーボ点滴静注	1,423	299	26.6%	1,550	127	8.9%
フォーシーガ錠	565	199	54.3%	650	85	15.0%
オレンシア皮下注	248	19	8.1%	255	7	3.0%
グラクティブ錠	225	△20	△8.3%	210	△15	△6.7%
ベレキシブル錠	85	23	36.2%	95	10	11.3%
カiproリス点滴静注用	87	3	4.0%	85	△2	△2.3%
パーサビブ静注透析用	84	△5	△5.3%	80	△4	△4.8%
オンジェンティス錠	50	21	72.9%	65	15	30.5%
オノアクト点滴静注用	45	△4	△7.9%	45	0	0.4%
ビラフトビカプセル	32	5	18.2%	40	8	23.2%
オパールモン錠	44	△4	△7.6%	35	△9	△19.9%
メクトビ錠	25	3	13.4%	30	5	18.1%

### 売上収益の内訳（予想）

（単位：億円）

	当期(2022年度)	次期(2023年度)
製品商品	2,950	3,100
ロイヤルティ・その他	1,521	1,650
合計	4,472	4,750

## 2023年度（2024年3月期）連結業績予想（IFRS）

### ①売上収益 4,750億円 当期比 278億円（6.2%）増

- ・製品商品の売上は、当期比150億円（5.1%）増加の3,100億円を見込んでいます。主要新製品のうち、「オプジーボ点滴静注」は、競争環境が激化する一方で、胃がん、食道がん、尿路上皮がんなどでの使用拡大を見込んでおり、当期比127億円（8.9%）増加の1,550億円を予想しています。その他の主要新製品では、「フォシーガ錠」が当期比85億円（15.0%）増加の650億円を見込んでおり、さらに「ベレキシブル錠」「オンジェンティス錠」などの売上拡大を見込んでいます。また、ロイヤルティ・その他は、ロイヤルティ収入が引き続き伸長する見込みであり、当期比129億円（8.5%）増加の1,650億円を見込んでいます。以上のことにより、売上収益は当期比278億円（6.2%）増加の4,750億円を予想しています。

### ②営業利益 1,530億円 当期比 110億円（7.8%）増

- ・売上原価は、製品商品の売上増加に伴い、当期比29億円（2.7%）増加の1,130億円を見込んでいます。
- ・研究開発費は、最新技術やテーマを有する先端企業、アカデミアとの共同研究のさらなる拡大、グローバル試験など、持続的成長の実現に向けて積極的な投資を行うため、当期比137億円（14.3%）増加の1,090億円を見込んでいます。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用の増加や、IT・デジタル関連の情報基盤投資、米国などグローバル事業の強化に向けた投資を積極的に行うことにより、当期比65億円（7.3%）増加の960億円を見込んでいます。
- ・その他の費用は、2023年3月期にダナファーバーがん研究所との特許関連訴訟の和解に伴う一時金などを計上した反動もあり、当期比66億円（59.3%）減少の45億円を見込んでいます。
- ・以上のことにより、営業利益は当期比110億円（7.8%）増加の1,530億円と予想しています。

### ③税引前当期利益 1,540億円 当期比 105億円（7.3%）増

- ・金融収支等は、当期比6億円（36.3%）減少の10億円の見込みです。

### ④当期利益 1,150億円 当期比 23億円（2.0%）増 （親会社の所有者帰属）

- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は、当期比23億円（2.0%）増加の1,150億円と予想しています。

## 減価償却費及び償却費・設備投資額及び無形資産投資額

### ・減価償却費及び償却費

(単位：億円)

	2021年度	2022年度	2023年度 (予定)
有形固定資産	99	98	99
無形資産	78	77	83
合計	177	175	182
対売上比率	4.9%	3.9%	3.9%

### ・設備投資額（工事ベース）及び無形資産投資額

(単位：億円)

	2021年度	2022年度	2023年度 (予定)
有形固定資産	93	77	75
無形資産	72	137	129
合計	165	214	204

### 期末従業員数（連結ベース）

	2021年度 (2022年3月末)	2022年度 (2023年3月末)
期末従業員数(人)	3,687	3,761

## 株式の状況 (2023年3月31日現在)

### 株式数

1. 発行可能株式総数	_____	1,500,000,000 株
2. 発行済株式の総数	_____	517,425,200 株

### 株主数

_____	61,926 名
-------	----------

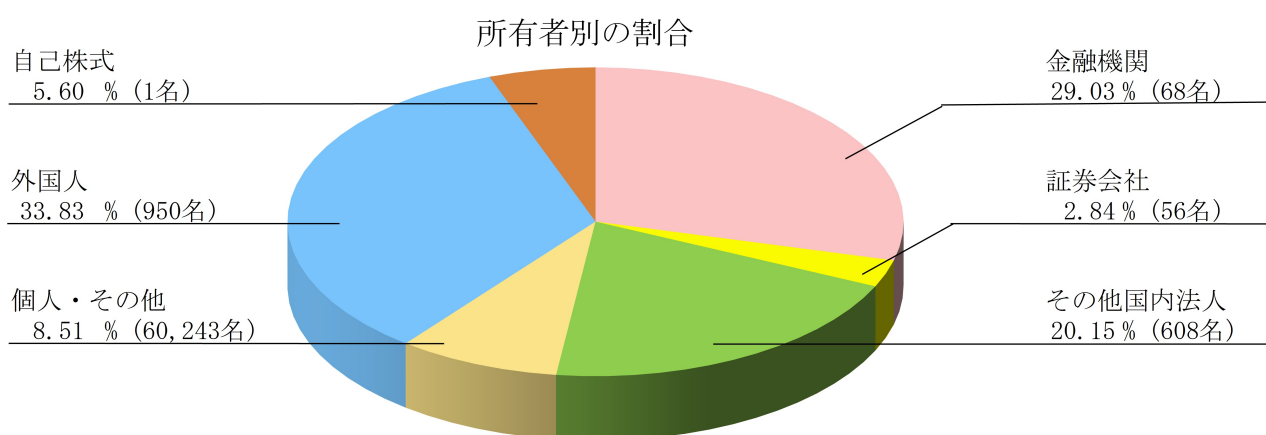
### 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	63,932	13.09
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	23,407	4.79
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	22,876	4.68
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.80
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.36
株式会社鶴鳴荘	16,153	3.30
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティール 505234	8,924	1.82
株式会社三菱UFJ銀行	8,640	1.76
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	7,779	1.59
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	6,658	1.36

(注1) 当社は、自己株式29,025千株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。

(注2) 持株比率は、自己株式(29,025千株)を控除して計算しております。

### 株式の分布状況



(注) 上記所有者別の割合は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になっておりません。



# I. 開発品（がん領域）の主な進捗状況

2023年4月25日現在

## <承認取得開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	肝細胞がん* <sup>1</sup>	注射	台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん* <sup>2</sup>	注射	韓国	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★ : 「オブジーボ」との併用試験

2023年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※1 : 「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法について、台湾で「ソラフェニブによる治療歴を有する肝細胞がん」を効能・効果とした承認を取得しました。

※2 : 「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法および「オブジーボ」と化学療法との併用療法について、韓国で「切除不能な進行または転移性食道扁平上皮がん」を効能・効果とした承認を取得しました。

## <申請中開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	悪性中皮腫* <sup>3</sup> (悪性胸膜中皮腫を除く)	注射	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

2023年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※3 : 「オブジーボ」について、国内で「悪性中皮腫（悪性胸膜中皮腫を除く）」を効能・効果とした承認申請を行いました。

## <臨床試験中開発品>

### <オブジーボ>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	肝細胞がん	注射	日韓	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	卵巣がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膀胱がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	前立腺がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

### <ヤーボイ>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	胃がん	注射	日韓台	III	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	日韓台	III	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	日韓	III	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

<b>&lt;I-0関連&gt;</b>						
						*) : 共同研究により創出された化合物を含む
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ONO-4686* (BMS-986207)	新有効成分	固形がん／抗TIGIT抗体	注射	日本	I / II	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4482* (BMS-986016) /Relatlimab	新有効成分	悪性黒色腫 ／抗LAG-3抗体	注射	日本	I / II	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7475*	新有効成分	固形がん ／Ax1/Mer阻害作用	錠	日本	I	自社
ONO-4578*	新有効成分	結腸・直腸がん ／プロスタグランジン 受容体 (EP4) 拮抗作用	錠	日本	I	自社
	新有効成分	膵がん／同上	錠	日本	I	自社
	新有効成分	非小細胞肺癌 ／同上	錠	日本	I	自社
	新有効成分	固形がん・胃がん ／同上	錠	日本	I	自社
ONO-7913* /Magrolimab	新有効成分	膵がん／抗CD47抗体	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	結腸・直腸がん／同上	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
ONO-7119* /Atamparib	新有効成分	固形がん／PARP7阻害作用	錠	日本	I	導入 (ライオン社)
ONO-7122*	新有効成分	固形がん／TGF-β阻害作用	注射	日本	I	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7914*	新有効成分	固形がん／STINGアゴニスト	注射	日本	I	自社

<b>&lt;その他&gt;</b>						
*) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ONO-7913 /Magrolimab	新有効成分	TP53変異陽性急性骨髄性白血病／抗CD47抗体	注射	日本	Ⅲ	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	急性骨髄性白血病 ／同上	注射	韓台	Ⅲ	導入 (ギリアド社)
ビラフトビカプセル /エンコラフェニブ	効能追加	甲状腺がん ／BRAF阻害作用	カプセル	日本	Ⅱ	導入 (ファイザー社)
メクトビ錠 /ビニメチニブ	効能追加	甲状腺がん ／MEK阻害作用	錠	日本	Ⅱ	導入 (ファイザー社)
ONO-4059 /チラブルチニブ塩酸塩	新有効成分	中枢神経系原発リンパ腫 ／BTK阻害作用	錠	米国	Ⅱ	自社
ONO-7475	新有効成分	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌 ／Ax1/Mer阻害作用	錠	日本	Ⅰ	自社
ONO-7913 /Magrolimab	新有効成分	固形がん／抗CD47抗体	注射	日本	Ⅰ	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	骨髄異形成症候群 ／同上	注射	日本	Ⅰ	導入 (ギリアド社)
ONO-4578	新有効成分	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がん／プロスタグランジン受容体(EP4)拮抗作用	錠	日本	Ⅰ	自社
ONO-4685	新有効成分	T細胞リンパ腫 ／PD-1×CD3二重特異性抗体	注射	米国	Ⅰ	自社
ONO-7018	新有効成分	非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病 ／MALT1阻害作用	錠	米国	Ⅰ	導入 (コーディア社)

★：「オプジーボ」との併用試験

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

## II. 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況

2023年4月25日現在

### <臨床試験中開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ONO-2017 /Cenobamate	新有効成分	てんかん強直間代発作 ／電位依存性ナトリウム 電流阻害/GABA <sub>A</sub> イオンチャ ネル機能増強作用	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
	新有効成分	てんかん部分発作 ／同上	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
ベレキシブル錠 /チラブルチニブ塩酸 塩	効能 追加	天疱瘡／BTK阻害作用	錠	日本	III	自社
ONO-2910	新有効成分	糖尿病性多発神経障害 ／シュワン細胞分化促進 作用	錠	日本	II	自社
ONO-4685	新有効成分	自己免疫疾患 ／PD-1×CD3二重特異性抗 体	注射	日欧	I	自社
ONO-7684	新有効成分	血栓症／FXIa阻害作用	錠	日欧	I	自社
ONO-2808	新有効成分	神経変性疾患 ／S1P5受容体作動作用	錠	日欧	I	自社
ONO-2020	新有効成分	神経変性疾患／エピジェ ネティクス制御作用	錠	米国	I	自社
ONO-1110	新有効成分	疼痛／内因性カンナビノ イド制御作用	経口	日本	I	自社

2023年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※BTK阻害剤「ベレキシブル錠」について、国内で全身性強皮症を対象としたフェーズI試験を実施していましたが、期待された有効性が確認できなかったため開発を中止しました。

## 主な開発品のプロフィール

### オブジーボ点滴静注 (ONO-4538/BMS-936558) /ニボルマブ 注射剤

オブジーボはヒト型抗ヒトPD-1モノクローナル抗体で、がんなどを対象として開発を進めています。PD-1は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム（負のシグナル）に関与しています。がん細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成果が報告されています。オブジーボは、リンパ球を沈静化させるPD-1の働きを抑制することで、がん細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

### ヤーボイ点滴静注 (ONO-4480) /イピリムマブ 注射剤

ヤーボイはヒト型抗ヒトCTLA-4モノクローナル抗体で、様々ながんを対象として開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

### ONO-4482/BMS-986016/Relatlimab 注射剤

ONO-4482はヒト型抗ヒトLAG-3モノクローナル抗体で、悪性黒色腫を対象として開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

### ONO-4686/BMS-986207 注射剤

ONO-4686はヒト型抗ヒトTIGITモノクローナル抗体で、固形がんを対象として開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

### ONO-4578 錠剤

ONO-4578はプロスタグランジン受容体 (EP4) 拮抗薬で、結腸・直腸がん、膵がん、非小細胞肺がん、胃がん、ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がんおよび固形がんを対象に開発を進めています。

### ビラフトビカプセル (ONO-7702) /エンコラフェニブ カプセル

ビラフトビはBRAF阻害剤で、国内で悪性黒色腫を効能・効果として上市し、その後、国内および韓国においてBRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした効能・効果も追加承認取得しました。さらに、未治療のBRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした開発を進めています。その他、国内でBRAF遺伝子変異陽性の甲状腺がんを対象に開発を進めています。

### メクトビ錠 (ONO-7703) /ビニメチニブ 錠剤

メクトビはMEK阻害剤で、国内で悪性黒色腫を効能・効果として上市し、その後、BRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした効能・効果も追加承認取得しました。その他、国内でBRAF遺伝子変異陽性の甲状腺がんを対象に開発を進めています。

### カイプロリス点滴静注用 (ONO-7057) /カルフィルゾミブ 注射剤

カイプロリスはプロテアソーム阻害剤で、多発性骨髄腫を効能・効果として上市し、その後、週2回のレジメンで、デキサメタゾンおよびヒト型抗CD38モノクローナル抗体「ダラザレックス（一般名：ダラツムマブ）点滴静注」との新たな併用（DKd）療法が可能になりました。

### ベレキシブル錠 (ONO-4059) /チラブルチニブ塩酸塩 錠剤

ベレキシブルはBTK阻害剤で、国内で再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫を効能・効果として上市し、その後、原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫を対象とした効能・効果も追加承認取得しました。その後、韓国および台湾において再発又は難治性のB細胞性中枢神経系原発リンパ腫を効能・効果とした承認を取得しました。また、米国において中枢神経系原発リンパ腫を対象に開発を進めています。その他、天疱瘡を対象に国内で開発を進めています。

ONO-7475 錠剤

ONO-7475はAx1/Mer阻害薬で、EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌および固形がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-7913/Magrolimab 注射剤

ONO-7913は抗CD47抗体で、膵がん、結腸・直腸がん、TP53変異陽性急性骨髄性白血病、固形がんおよび骨髄異形成症候群を対象に国内で、また、急性骨髄性白血病を対象に韓国、台湾で開発を進めています。

ONO-7119/Atamparib 錠剤

ONO-7119はPARP7阻害薬で、固形がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-7122 注射剤

ONO-7122はTGF- $\beta$  阻害薬で、固形がんを対象に国内で開発を進めています。  
なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリistol・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ONO-7914 注射剤

ONO-7914はSTINGアゴニストで、固形がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-4685 注射剤

ONO-4685はPD-1 $\times$ CD3二重特異性抗体で、自己免疫疾患を対象に国内および欧州で、T細胞リンパ腫を対象に米国で開発を進めています。

ONO-7018 錠剤

ONO-7018はMALT1阻害薬で、非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病を対象に米国で開発を進めています。

オノアクト点滴静注用 (ONO-1101) /ランジオロール塩酸塩 注射剤

小児の心機能低下例における頻脈性不整脈（上室頻拍、心房細動、心房粗動）を効能・効果とした承認を取得しました。

ONO-2017/Cenobamate 錠剤

ONO-2017は電位依存性ナトリウム電流阻害/GABA<sub>A</sub>イオンチャネル機能増強薬で、てんかん強直間代発作およびてんかん部分発作を対象に国内で開発を進めています。

ONO-7684 錠剤

ONO-7684はFXIa阻害薬で、血栓症を対象に国内および欧州で開発を進めています。

ONO-2808 錠剤

ONO-2808はS1P5受容体作動薬で、神経変性疾患を対象に国内および欧州で開発を進めています。

ONO-2910 錠剤

ONO-2910はシュワン細胞分化促進作用薬で、糖尿病性多発神経障害を対象に国内で開発を進めています。

ONO-2020 錠剤

ONO-2020はエピジェネティクス制御薬で、神経変性疾患を対象に米国で開発を進めています。

ONO-1110 経口

ONO-1110は内因性カンナビノイド制御薬で、疼痛を対象に国内で開発を進めています。